

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第1234号	氏名	井上 順子
論文審査担当者		主査教授 松山 俊文 副査教授 上平 憲 副査教授 由井 克之	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価</p> <p>TNF-<math>\alpha</math>や IFN-<math>\gamma</math>などのいわゆる炎症性サイトカインは、貧血を呈する種々の疾患で高値となることが報告されている。そこから炎症性サイトカイン、または炎症性サイトカインによって誘導された因子が造血系に作用していることが考えられる。この研究ではこれまで明らかにされていなかった炎症性サイトカインによる造血系細胞でのケモカインの誘導について赤芽球系細胞株を用いて明らかにしようとしたものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>用いられたのは申請者の研究室で樹立されたエリスロポエチン依存性赤芽球系細胞株、AS-E2 である。エリスロポエチン存在下に TNF-<math>\alpha</math>、IFN-<math>\gamma</math>、IL-1<math>\beta</math> を作用させて種々のケモカインの発現を RT-PCR で検討し、中でも誘導が顕著であった MIP-3<math>\alpha</math> についてはその分泌を ELISA によって確認するとともにプロモーター解析によって発現誘導機構を検討している。さらに MIP-3<math>\alpha</math> の受容体である CCR6 の発現を RT-PCR とフローサイトメトリーで検討している。最後に健常人骨髄赤芽球での MIP-3<math>\alpha</math> の発現を見ることで、細胞株で得られた情報の普遍性を確認している。以上の手法は標準的な解析法と評価できる。</p> <p>3. 解析・考察の評価</p> <p>解析の結果、炎症性サイトカインによって赤芽球系細胞から MIP-3a が誘導されること、その受容体が細胞内に恒常的に発現していることが見出された。この結果は造血系細胞においてもケモカインが誘導され、何らかの機能を果たしている可能性を示唆するものであり今後の進展が大いに期待される。審査員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			